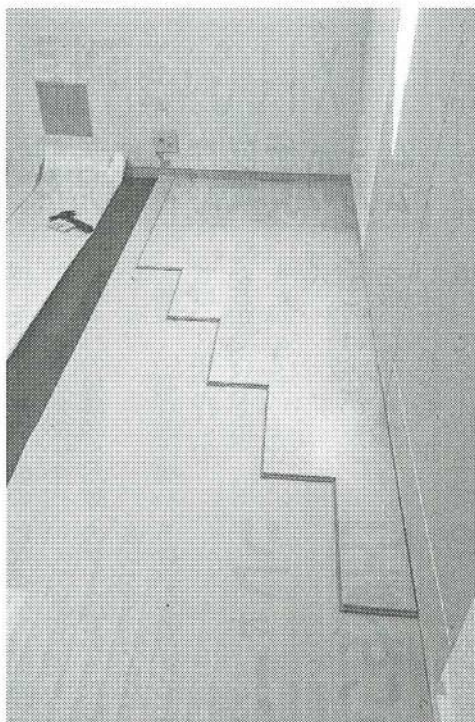


置き敷き施工の「ペルゴフロア」

ポラスグループが採用

リフォーム・新築で提案へ



試験施工された「ペルゴLVTフロア」

今回ポラスグループが「ペルゴラミネートフロア」「LVTフロア」の2タイプを採用したのは、木質系の「ア」と樹脂系の「ペルゴ」。

工期短縮や廃棄物抑制にも効果

ポラスグループ（中内晃次郎代表）は4月から建設資材販売を行っている北洲（宮城県富谷市、村上ひろみ社長）が日本国内で輸入販売元となっているベルギーのユニリン社製「ペルゴフロア」を採用した。接着剤や釘を用いない置き敷き施工で工期短縮が可能となるほか、傷や汚れに対して非常に強いのが特徴。今後、ポラスグループが提供する住宅リフォームをはじめ、新築物件にも提案・展開していく考えだ。

「ペルゴラミネートフロア」は、4層構造で基材に高密度繊維板（HDF）を使用。表面に酸化アルミニウムを含む耐摩耗性に優れた表面シート（チタンX）で覆っていることから、①家具の移動などによる傷に強い②衝撃などでへこみにくい③水に強い④火や熱に強い⑤汚れに強い⑥紫外線にも強く変色も防げる「」などの特徴がある。

「ペルゴLVTフロア」

は、5層構造で基材に耐久性の高いビニールコアとガラス繊維入りの安定化層を使用。ラミネートフロアと同様の特徴に加えて摩耗にも強い。

ポラス・アフターメンテナンス部の渡野務課長は「施工は、既存のフローリングの上から重ね貼りが可能なため、既存床を剥がす時間の短縮につながるほか、建設廃棄物の抑制にもなる。傷に非常に強いことから床施工をしたそばから家具の移動ができるので養生を簡略化できる。そのため内装業者による一気通貫作業が可能となるなど、コンパクトな工事でコスト削減が可能。通常の合板フロアによる施工よりも35%以上の工期短縮が見込める」とリフォームでのメリットについて言及する。

今後、北洲・市場開発部の藤原広部長は「壁や天井のクロスを張り替えるように床のリフォームも行っ

てほしい。接着剤や釘を用いないことで、躯体をいじめることもない」と強調する。今回試験施工した顧客からも「非常にきれいで傷が付にくいのが魅力。掃除もしやすく、汚れや傷について神経質にならずに済むところが評価できる」との声があがっている。

同タイプとも伸縮が少ないため床暖房にも対応する。価格は木質系が1平方メートル8千円、LVTタイプが1万1千円程度、樹脂系が同6827円、6841円となっている。ポラスグループでは、住宅品質保証でのリフォーム提案を皮切りに新築住宅においても「ペルゴフロア」を提案していく考え。「グループのリフォーム事業をはじめ、新築住宅で採用する。今後、グループとしてメーカーと協力した取り組みを行ってきたい」としている。